

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（看護学）	氏名	川瀬 淑子
学位授与の条件	学位規則第 4 条第①、2 項該当		
論文題目			
Development of a Clinical Judgment Scale for Japanese Nurses (日本人看護師のための臨床判断力尺度の開発)			
論文審査担当者			
主査 教授 折山 早苗		印	
審査委員 教授 森山 美知子			
審査委員 教授 中谷 久恵			
〔論文審査の結果の要旨〕			
<p>医療の高度化や少子高齢化により，臨床現場の看護師には高度な看護実践能力が求められている。複数の患者を受け持ち，多重課題に対応する臨床の看護師にとって臨床判断力を高めることが重要である。看護師が患者に対し臨床判断を行う時には一定の思考プロセスを辿る。Clinical judgment model (Tanner, 2006)は，熟練看護師の臨床判断の思考プロセスを，背景，気づき（予期，初期把握），解釈，反応（行為，結果），リフレクションという構成要素で説明した。看護師がこのプロセスを辿るためにどのような能力が必要かを明らかにすることは，看護師の臨床判断力を育成するうえで重要である。そこで本研究では，臨床判断プロセスを基盤とした臨床判断力尺度を開発することを目的とした。</p> <p>研究 1 では尺度原案を作成した。臨床判断の定義 (Corcoran, 1992) に基づき，Clinical judgment model の背景，気づき（予期，初期把握），解釈までを臨床判断とした。これらの各段階における臨床判断力の要素を抽出するために，A 県内の専門看護師および認定看護師計 8 名にインタビュー調査を行い，質的記述的に分析した。結果，「背景」は 8 カテゴリー【疾患に対する医学的知識の保有】【必要な情報の意識した獲得】【患者の変化を捉えるための意識的な情報交換】【意識した患者との対話】【患者の様子の観察】【病状の変化の見極め】【患者の病状の比較】【経験知】を，「予期」は 4 カテゴリー【意思決定への迷いから生じる患者の不利益】【患者の心情】【患者の病状の変化】【身体症状の要因】を，「初期把握」は 5 カテゴリー【患者の重大な身体状況の変化】【患者の訴え】【意思決定への迷い】【患者の混乱した心理状態】【普段の患者の様子との違い】を，「解釈」は 2 カテゴリー【根拠に基づく論理的推測】【経験を知識に照らし合わせた推測】を生成した。本結果と文献検討より 44 項目から成る尺度原案を作成した。次に，作成した臨床判断力尺度の内容的妥当性と表面的妥当性を検討した。</p> <p>研究 2 では，臨床判断力尺度原案を用い，全国の無作為抽出した 300 の病院の中から，看護管理者の同意が得られた 28 病院の看護師 1,444 名を対象に調査を行った。項目分析</p>			

後、因子的妥当性を検証するために探索的因子分析にて質問項目の選定を行った後、確証的因子分析を実施し、モデルの適合度の判定を行った。信頼性を検証するために、臨床判断力尺度の Cronbach's $\alpha$  係数を算出した。

結果、回収数は 633 部（回収率 44%）で、有効回答 610 部を分析対象とした。対象者は、女性 86.2%、平均年齢 38.3 $\pm$ 9.9 歳、看護師経験年数 15 $\pm$ 9.6 年であった。項目分析の結果、44 の質問項目中、天井効果がみられた 10 項目を削除した。項目間相関について、0.70 以上を示した 19 組について、内容を検討しながら片方の質問項目を削除した結果、質問項目は 23 項目となった。これらの 23 項目について、プロマックス回転（最尤法）を実施し、2 因子が抽出された。第 1 因子は患者の状態を理論的、実践的に推論する力を示しており「理論的・実践的推論」、第 2 因子は患者を観察することで患者の状態に気づき、把握する力を示しており「観察による状態の把握」と命名した。確証的因子分析の結果、モデルの適合度は GFI=0.874, AGFI=0.849, CFI=0.933, RMSEA=0.07 であった。Cronbach's $\alpha$  係数は第 1 因子が 0.943, 第 2 因子が 0.924, 全体が 0.965 であった。

臨床判断力尺度 23 項目について、看護師経験年数 2 年未満と 3 年以上の看護師の各下位尺度平均得点、尺度全体平均得点を比較した結果、すべてにおいて看護師経験年数 3 年以上の看護師の方が 2 年未満の看護師より平均得点が有意に高かった ( $P<0.001$ )。

本研究において開発した臨床判断力尺度は 23 項目、2 因子で構成された。確証的因子分析の結果、モデルの適合度が一定の基準を満たしており、臨床判断力尺度の構成概念妥当性が支持された。さらに、専門家会議により質問項目を検討後、本調査にて、項目分析によって質問項目の選定を行う手順を踏んだことから、内容的妥当性を有し、また、Cronbach's $\alpha$  係数は第 1 因子、第 2 因子、全体とも 0.9 以上であることから本尺度は内的整合性を確保しているといえる。

以上の結果から、本論文は、日本人看護師のための臨床判断力尺度を開発し、臨床の看護師や学生の看護実践における評価を可能とし、優れた臨床判断力を有する看護師の育成に貢献する研究として高く評価される。

よって審査委員会委員全員は、本論文が著者に博士（看護学）の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。